

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900330		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム金木屋 2		
所在地	〒021-0012 岩手県一関市宮前町14-9		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和2年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>秋になると、庭の金木犀の花が咲き、リビングにまでいい香りが届きます。コロナ禍の中、外出は出来ませんが、レク活動で壁飾り等を作り、季節を感じていただいています。1階・2階の職員の連携も取れており、何かあれば相談し、協力しあっています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一関市山目の住宅地の一角にあって1階と2階の二つのユニットで運営されている。宮城県栗原市に本部を置く運営法人の市内二つ目のグループホームである。開設3年目を迎え、手探りながらも進めてきた地域との交流は、コロナ禍により止むを得ず中断せざるを得ない状況にある。何でも話し合える職場風土を作り上げ、開設時に職員で決めた理念に沿って、日々安心して生活出来る介護を実践しながら、地域とともに歩んでいこうとしている。食事の副食は法人から搬送され、手が空いた時間を有効に活用して利用者の支援に厚みを持たせ、シフトを調整した居室担当職員の通院同行はもとより、午前10時、午後2時をお茶の時間として何気ない会話を交わすことにより、利用者のその時々的心情に配慮した介護の実践に繋げている。更に、全ての利用者について、数行ずつであっても30日分を「毎日の暮らしぶり」として作成・お届けし、コロナ禍で面会が思うに任せない家族の心情に応えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示し、いつでも確認出来るようにしている。理念を念頭において支援を行うようにしている。	開設時に職員で相談して決めた理念は、利用者に寄り添い日々安心して生活出来る介護の実践を宣誓するものとして位置付けられ、同時に地域と仲良くしていこうとする姿勢を宣言している。事務所に掲示し職員間の共有に努めている。	理念は介護に従事する職員のみならず、利用者にとっても事業所での生活の基本となるものです。利用者全員の目に触れるようホールに掲示することについて、意義、功罪等を含め、それぞれのユニットで協議されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎月広報誌を届けていただいている。コロナ禍において、現在は交流は少なくなっているが、ご近所の方とお会いした際は、挨拶を交わすなどしている。	開設間もないこともあり、町内会(山目宮前民区)に加入しながら地域との交流を進めようとしていた矢先、コロナ禍のため例年の夏祭りの交流もなく、広報紙を届けて下さる区長を通じて地域の情報を得ている状況にある。コロナ禍の自粛が解除されたら、まずは事業所周辺の散歩から再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けては何も出来ていない状況である。今後何か出来れば、と考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催される会議では、ホーム内の状況や行事、事故報告等を伝えるなどし、参加者の助言をケアに活かせるように努めていたが、コロナ禍において、今年度は開催出来ておらず、ホームからの報告のみとなっている。	委員は、民生委員を兼ねる区長と利用者・家族、行政関係者で構成されている。これまで運営状況等を報告し、夏祭りを通じた地域との交流等の提言、助力を得てきた。コロナ禍のため、2か月毎に運営状況等の資料を郵送することで会議に代えている。	運営推進会議の役割に照らし、地域の社会資源の関係者、消防職員や警察職員のOB、隣近所の方々などを委員として委嘱し、多方面からの意見を頂ける体制にすることが期待されます。またコロナ禍のため通常の開催形態が困難であっても、資料の郵送に併せ、委員から意見等を頂けるよう改めることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、電話にて相談・確認や、直接お会いして対話を行う事もある。	広域行政事務組合には制度の運用を照会し、市の長寿社会課からは各種行政情報を得ている。また生活保護受給者の入居も可能であることなどから、地域包括支援センターからは、緊急の入居受入れの照会も寄せられ、出来る限り対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所の内部研修にて、身体拘束について理解を深めている。また、聞き取り調査などにて、現状把握に努めている。	事業所としての指針を作成し、両ユニット持ち回りで、全職員が出席する定例の職員会議に引き続き、身体拘束廃止委員会を開催してきた。法人の方針により、現在は職員の集合を控え、資料の回覧周知に代えている。起床センサーの使用はない。管理者は気になる言葉遣いがあった際には、その場で職員に注意を促すことにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所の内部研修にて虐待について学び理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の内部研修で権利擁護に関する勉強会を実施し、知識を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容について十分に理解していただけるように、御家族には時間をかけて説明しており、その上で契約手続きを行なうように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や要望があった際は、担当職員と相談し、その内容を会議等で報告している。また、意見を言い出しにくい場合も考えられるので、玄関にご意見箱を設置している。	2階の数人を除き、利用者は、何をしたいかを言葉で伝えており、それが室内での作業に繋がっている。家族には、日々の介護記録から抽出した「毎日の暮らしぶり」を時系列に整理したものを郵送することで、要望などを話しやすい環境づくりに寄与している。	家族に提供している「毎日の暮らしぶり」は、介護の振返りの貴重な資料としてはもとより、家族の評価も高く、事業所と家族の会話の糸口以上に、相互の信頼の基礎になっていると思われます。今後とも職員が心を一つにして、地道な努力を続けられることを期待します。

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で各職員からの意見や要望、提案を聴く機会を設け、業務の見直し、改善を行い、サービスの向上に努めている。	二人の管理者はともに、事業所の強みを「職員の仲がよいこと」とする通り、何時でも何でも話し合える職場環境にある。会議を開くまでもなく、職員から様々な気付きが寄せられ、スープの量をカップを持ちやすい程度にすることや日めくりカレンダーの製作・活用など、利用者を笑顔にするちょっとした工夫が職員の発意により積み重ねられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や、自信・やりがいを持つような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な資格取得を促している。研修への参加や開催を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上や、同業者との交流の為、外部研修等への参加を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の希望になるべく見えるように、出来るところはお祈いしながら、落ち着いて過ごせる介護をすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様が安心して穏やかに過ごせるよう、家族様の要望に耳を傾け、何かあった際は話し合える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々の状態をみながら、今、何を必要としているか、その都度考えながらすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体操で共に体を動かしたり、新聞たのみ等、出来る事を手伝っていただきながら、皆さんと一緒に生活している事を確認していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内でどのように過ごしているか、毎月家族様に文書でお送りしている。何かあった際は、直接電話連絡にて報告する事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、直接お会いしての面会が出来ない為、御家族様やお孫さんの写真をお部屋に置いている方もいる。定期的に電話にて声をきき、安心されている方もいる。	他県の高齢者施設で新型コロナウイルスの感染が発生したことを契機に、法人として直接会っての面会を禁止している。そのため、感染防止対策は完璧に行なわれている反面、止むを得ないとは言え、馴染みの友人・知人はもとより、家族と直接面談しての関りも絶えている状況にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは皆さんとの交流をもっといただくよう、時折席替えをしたり、必要に応じて職員が間に入り孤立しないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方でも、御家族様とお会いした際は、状態を伺う等している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話をしながら、本人の希望等を確認している。困難な場合、日々の様子や言動等から思いを読み取るように努めている。	安心した生活を提供できる基本は、理念に沿って利用者の思いや願いを知り理解することと捉えている。毎日午前10時と午後2時のお茶の時間を中心に、利用者との何気ない会話を積み重ね、その中から、利用者の心情やこれまでの変転極まりない人生の理解に努め、時には家族の情報も交えながら、職員間で共有し「安心」した生活の提供に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査の際、ご本人やご家族様から生活歴や暮らし方、趣味等を伺い、把握に努めケアにつながるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表や記録を活用し把握に努めている。また、毎月カンファレンスを実施し、さらに現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の希望等を取り入れて介護計画を作成している。また、日常の様子や変化について意見を出しあり、介護計画に反映をさせている。	長期目標1年、短期目標6ヵ月とし、職員全員による毎月のモニタリングを経て、居室担当者作成の介護記録を基に管理者とケアマネが6ヵ月を周期とする原案を作成し、カンファレンスを経て成案としている。計画には、日常生活での取り組みを期待する事項を盛り込んでいるが、一定の目的を達成し日常生活に溶け込んだ場合には、次の目標に置き換えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録等に毎日記録しており、介護計画の見直しに活かしている。また、カンファレンスをして職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の希望にて訪問美容室を利用する方もいる。また、かかりつけ医への通院支援を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内にある訪問美容室に来ていただき、希望者が利用している。また、かかりつけの病院や調剤薬局を利用・相談する事により、不安なく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科や認知症に関する病院受診は基本的に職員が同行しており、受診結果に変更がある場合は、御家族にも報告している。	1階は7人中6人、2回は9人中5人の11人の利用者が入居前のかかりつけ医を受診し、他は近くの協力医に変更している。家族が受診に同行している眼科等の特別科を除き、受診日を念頭に職員のシフトを調整しながら居室担当が通院に同行している。普段の健康管理は毎週栗原市から来訪する法人の看護師を中心に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に同法人内の看護師が来所しており、健康管理を行っている。状態について相談し、アドバイスをいただく事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の電話連絡、また医療機関の関係者へ相談や情報収集に努めており、連携を図っている。また、家族と情報交換し、協力を得ながら、速やかな入退院の支援に努めている。コロナ禍の為、入院中の訪問は現在出来ていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に、重度化や看取りにいて指針に沿って御家族様に説明をしている。希望された場合、医師や看護師の助言を得ながら支援していきたいと思っている。	指針を策定し、入居時に本人・家族に説明し了解を得ている。現段階で1人が看取りを希望している。医療行為が必要とされない限り、事業所で介護することを基本としている。事業所としての看取りの実績はないが、2人の職員(うち1人は管理者)が系列のグループホームで経験している。看取りが必要になった場合には、家族と医師の協議の下、居室担当、管理者、看護師を中心に他の職員のサポートを得て対応する方向にある。職員の不安を取り除くことが課題としている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不安な事は他先輩職員や看護師に相談するように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署等の協力を得て、年2回(日勤想定・夜間想定)の避難訓練を実施している。また、地震災害に備えて、食料や飲料水の確保をしている。	ハザードマップ上、災害の危険区域には指定されていない。年2回火災の避難訓練を行い、秋の訓練は夜間想定としている。課題であった非常口からの車椅子避難に備え、避難用のスロープを常備した。地域への協力の呼びかけはコロナ禍のため中断しているが、近隣の家庭には、訓練実施をお知らせするポスティングを継続している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けをする時など、なるべく他の方に聞こえるように大きい声で言わないようプライバシーに配慮するよう気をつけている。	利用者と毎日の会話を通じ、これまでの生活で培ったお掃除、漬物づくり、書道等の持てる力を把握し、普段の生活にこれを発揮してもらうことを通じ、個を尊重した介護の実践に繋げている。トイレの誘導は他の利用者に気付かれないように声掛けし、居室に入る際には、ノック、声掛けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分の希望をいうのが難しい方もいるので、そのような方には聞き方を工夫してみるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の活動や大勢と一緒に活動するのが苦手な方には、個別でレクをしたり、工夫するようにし、その人その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴介助時などに特に気を付けて観察・ケアするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段好き嫌いや残しが多い方、どんな提供方法であれば少しでも多く食べていただけるのか、会議等を通して職員同士で相談している。	ご飯と味噌汁はユニット毎に職員が調理しているが、副食は法人本部から真空パックで届けられている。利用者が調理することはないが、テーブル拭きや配膳などのお手伝いを行っている。誕生会の行事食として、利用者から希望があればメニューを変更して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限がある方や、水分がすすまない方などへの提供内容を、定期的に会議等にて見直す事で、今のやり方が合っているか見極めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る利用者様にもお声がけし、利用者自身でも清潔を意識して頂けるよう気を配っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄間隔を把握している。日頃、尿・便意の感覚があいまいで、トイレの感覚が長くあいたりしていた際は、こちらからもお声がけし、トイレ誘導を行い、排泄を促すなどしている。	日中は、ポータブル利用の2人、オムツの1人を除く全員がトイレを使用している。夜間でも布パンツ使用の4人の方は、職員の誘導なしでトイレで排泄している。以前、居室での排泄が続いた方も、職員の工夫が実りトイレを使用するようになるなど、職員は、現状維持を最低限の目標として支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事状況や排便状況から体調の良し悪しを把握、便状態の変化によっては下剤の調整など、適宜看護師に相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の中には、ご自分の入浴日を楽しみに待っている方もいる。希望や要望に沿って、湯加減の調整・入浴時間を変えている。	週に2日を入浴日にし、体調チェックを行なってから入浴している。浴室はゆっくりとした広さがあり、湯船につかりながら、職員との寛ぎの時間として、昔の山登りや川で泳いだ事などを楽しそうに話している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や個性に沿って、横になっていただいたり、テレビやラジオを楽しんでいただくなど、個々に合った支援をしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々の状態や希望によって、服薬方法を変えながら支援している。また、薬の変化に伴う症状にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	子供の頃の遊びや、若い頃の趣味等を聞きながら本人が楽しんで行える事を考え、支援している。テレビ(ラジオ)体操・タオルたたみは日課として行っている。広告チラシでゴミ箱を作ったり、新聞たたみなども、職員と一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止の為、行事での外出を行う事が出来なかった。病院受診の外出時には、風景をみて季節を感じていた。そこから会話に発展していくように支援している。	コロナ禍のため、当たり前のように行っていた季節のドライブ、事業所周辺の日々の散歩が出来ない状態が続いている。外出に代わる利用者のストレスの解消のため、外界と遮断された室内にあっても、貼り絵や梅干しづくりなど、利用者は、持てる技能を活かした作業に勤しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭を所持し、使う事はない。必要なものがあれば、家族に連絡したり、施設で立替で購入等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば、家族に電話をかけられるように支援している。家族の声を聴き、安心している様子も伺える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白を基調とした内装なので、清潔感がある。季節感を出すために、装飾を変えたりしている。	両ユニットとも同じ間取りで、リビングの南側と西側には大きな窓があり、いっぱい陽光が差し込んでいる。白を基調とした壁面には、作品の貼り絵が飾られ、全体的に柔らかい雰囲気を作り上げている。暖房等に2台のエアコンとガスストーブが用意されているが、ガスストーブを使うことは少ないとしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で会話ができるように相性を考えてテーブルの配置や席を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で過ごされていたように、テレビや本棚を持ち込んでいただき、居室でも快適に過ごせるように、入居者様と一緒に考え工夫している。	ベッド、大型のクローゼット、洗面台が備えられ、テレビのほか。利用者が使い慣れた小箆筒、椅子などが持ち込まれている。壁には家族写真や父の日、母の日に贈られた職員手作りのカード、お気に入りの絵画の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	上階には階段とエレベーターを使用するが、足・腰の運動にと職員の見守りの中、階段の上り下りを行っている入居者の方もいる。また、居室の目印にと、居室の名前と同じものを付けているところもある。		